

2025 年度 専修学校 育成保育カレッジ学院 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：校長 仲村 義明

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 西江 徳雄

1. 学校の教育目標

社会生活で必ず要求される心のやさしさや礼節、知識を養い教養文化のバランスのとれた人間育成を目標とする。

本校は、沖縄独特の文化、礼節・謙虚・感謝、見えないけれど大切なココロ、勝ち負けよりも礼を重んじる。子どもを愛し「ありがとう」の気持ちを忘れない。それが、育成が求める「保育道」である。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

教育目標 「育てるココロを育てる」

入学定員の充足率が 50%

退学率 5%

就職率 100%

① 振り返り

今年も学校評価委員会を開催し、委員の方々と問題解決に取り組み、学校評価委員会からの最終報告書をもとに、引き続き対象校となるよう努力していきたい。学校関係者評価委員会から指摘された項目は、さらに努力して改善し入学定員の充足率の 80%を目標に安定した学生募集が出来る様、授業内容を充実させて本校の強みである専門職である保育士の質の担保を確保し、グループのラポール育成こども園での連携を図り、学校として全教職員で取り組みに努力したい。これからも本校は県内の保育園及び認定こども園等で保育士不足解消の為に人的資源を生かし保育士養成の専門学校として社会に貢献できる学生を育成し努力し推進していく考えである。

充足率が 5 割未満は要件が厳しいと考えるが県内の保育園等から「深刻な保育士不足」という地域の経済社会にとって重要な専門学校であると考えます。なぜなら、本校は 30 年以上の保育園等の実習の実績があり連携体制がとれる企業等（認可保育園や認定こども園、幼稚園、施設）が、200 園近くあるのも本校の社会に果たす貢献度も検討してほしいと希望する。又、卒業生の就職率も毎年 95%以上の実績がある。

今、全国的に保育士養成校の定員不足で四大や短大及び専門学校の募集停止の記事が報告されている。

令和 6 年から 7 年度、全国の短期大学の保育士養成校約 20 校が募集停止の報道を見る度に、当校だけの問題ではないことが理解できます。全国の専門学校はさらに厳しい学校運営が続いている。学生の人口減やマスコミメディアの偏向報道で保育士のなり手は今後も減り続けるだろう。結果として保育学部への不入学を招き、人材は量も保育の質も低下する。保育園や認定こども園でも保育士確保がいつそう厳しい状況になっている。市町村保育園を運営する園長からは「近くに保育士養成校がない」・「保育士が全く採用できない」等の深刻な悩みが本校にも声として聞こえる。

そして、令和 6 年度に入学した学生で 3 人が本校の卒業生の子供や兄弟・姉妹であり、親子二代で入学して頂き学校として嬉しい限りである。

保育士養成校は社会にとっては大切なインフラである。国や県が条件のみで評価をするのではなく、今だからこそ 3 年課程で質の高い保育士養成校に対して大きな支援が急務である。